

人間関係論

《担当者名》 歯学部准教授 / 松岡 紘史 mazun@

【概要】

患者さんが抱える問題や医療に関連する問題の中には、これまでの一般的な医療の発想では解決できない問題がある。こうした問題に必要なのは、人間行動を総合的に解明し、予測、コントロールしようとする実証的経験科学である「行動科学」や健康と疾病に関する心理社会科学的、行動科学的、及び医学生物学的知見と技術を集積統合し、これらの知識と技術を病因の解明と疾病の予防、診断、治療及びリハビリテーションに応用していく「行動医学」の概念である。本講義では、行動科学、行動医学の基本的な概念について理解するとともに、歯科医療現場での応用方法について学習する。

【学修目標】

一般目標

患者の心身両面に配慮できる医療人となるために、行動科学の重要性とその実践方法について理解する。

行動目標

1. 行動科学の観点およびBio-psycho-social modelがなぜ医療の現場で必要であることを説明する。
2. 患者さんが訴える症状や問題を機能分析を用いて評価する。
3. 行動科学の基礎となる行動原理について説明する。
4. 患者さんと良好な関係を構築、維持するために必要なコミュニケーションスキルについて説明する。
5. 歯科で遭遇する問題に対して行動科学を適用する方法について説明する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	行動科学、および行動医学の定義について学ぶとともに、なぜBio-psycho-social modelが歯科医療の現場で必要か、心身相関の観点から学習する。	松岡 紘史
2	アセスメント	行動理論の観点から人間を理解するためのアセスメントについて理解する。	松岡 紘史
3	アセスメント	行動理論の観点から人間を理解するためのアセスメントについて実際の検査を体験して理解する。	松岡 紘史
4	行動理論：学習理論	人間行動の理解の仕方について、心理学原理である古典的条件づけおよびオペラント条件づけについて学び、患者さんの症状を理解する理論的視点を考える。	松岡 紘史
5	行動理論：認知理論	歯科を受診する患者さんの症状に特有の認知があるかどうかを考え、症状に及ぼす認知の機能を学習するとともに、患者さんにどのような援助ができるかを理論的に学習する。	松岡 紘史
6	行動理論：機能分析	行動科学の実践で不可欠となってきた行動理論のアプローチの中で、問題行動の理解の仕方の1つである機能分析を理解する。	松岡 紘史
7	行動理論：行動のコントロール	行動科学の実践で不可欠となってきた行動理論のアプローチの中で、行動のコントロールに関するアプローチを理解する。	松岡 紘史
8	行動理論：行動変容に関連する枠組み	行動科学の実践で不可欠となってきた行動理論のアプローチの中で、行動変容に関連する枠組みについて理解する。	松岡 紘史
9	行動理論：認知のコントロール	行動科学の実践で不可欠となってきた行動理論のアプローチの中で、認知のコントロールに関するアプローチを理解する。	松岡 紘史
10	行動理論：感情のコントロール	行動科学の実践で不可欠となってきた行動理論のアプローチの中で、気分・感情のコントロールに関するアプローチを理解する。	松岡 紘史
11	行動科学応用の基本となるコミュニケーション	患者さんと良好な関係を構築、維持するために必要なコミュニケーションスキルについて学び、適切な患者指導の方法と工夫について考える。	松岡 紘史

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
12	患者指導の実際()：生活習慣の修正	患者さんを指導する際に必要な行動変容の方法論について、具体的症例を通して学習する。特に、歯科保健行動の修正に焦点をあて、患者指導に当たって行動原理をどのように活用できるか学ぶ。	松岡 紘史
13	患者指導の実際()：慢性疾患を有する患者	患者さんを指導する際に必要な行動変容の方法論について、具体的症例を通して学習する。特に、慢性疾患を有する患者の指導に焦点を当て、患者指導に当たって行動原理をどのように活用できるか学ぶ。	松岡 紘史
14	患者指導の実際()：痛みを有する患者	患者さんを指導する際に必要な行動変容の方法論について、具体的症例を通して学習する。特に、痛みを有する患者の指導に焦点を当て、患者指導に当たって行動原理をどのように活用できるか学ぶ。	松岡 紘史
15	患者指導の実際()：禁煙指導	患者さんを指導する際に必要な行動変容の方法論について、具体的症例を通して学習する。特に、禁煙指導に焦点を当て、患者指導に当たって行動原理をどのように活用できるか学ぶ。	松岡 紘史

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

期末レポート(70%)、各講義で課されるレポート(30%)

【教科書】

毎回プリントを配布する

歯科医師・歯科衛生士が知っておきたい：歯科臨床における 心理・行動科学的アプローチ

【参考書】

「実践家のための認知行動療法テクニックガイド」北大路書房

「歯科医師・歯科衛生士のための認知行動療法 チェアサイドで困ったときに」医歯薬出版

【備考】

レポートについて希望者にはフィードバックを行う。

【学修の準備】

予習として、講義内で紹介される参考文献書籍等を積極的に活用し、関連する内容について理解する。(80分)

復習として、配付されたプリントに基づいて、講義で取り上げられた概念等に関して理解を深めておく。(80分)

【実務経験】

松岡紘史(公認心理師)

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での実務経験を生かし、行動科学・行動医学を用いた患者対応への実際について講義を行う。